

第39回（仮称）まちづくり条例検討市民会議

会議録概要（委員発言要旨）

平成21年7月2日（木）

会議の成立

委員総数14名 出席委員数12名 半数以上の出席により会議は成立する。

- ・出席委員 ～ 荒井、井上、逢坂、笠原、合田、杉本、高橋、田巻、中山、橋本、水口、三原
- ・欠席委員 ～ 浦西、小野寺

配布資料について

〔事務局～企画課長〕

- ・資料1は、前文について、議論経過を踏まえ座長が作成した修正案
- ・資料2、3は、第37回及び第38回の会議録概要。

〔中山座長〕

- ・委員提出資料として、笠原委員から前文案の内容に関するものが出されているが、この後すぐに前文の協議に入るので、その中で説明をしてもらう。
- ・逢坂委員からは、情報共有と市民参加に関するものが提出されているが、これについても、条例素案の検討時に説明を求めたい。

前回（第38回）会議内容の確認

〔中山座長〕

- ・前回は、前文について副座長が作成した案を基に検討を行い、今までの議論の経過を踏まえて各委員から意見をもらった。その内容をこちらでまとめ直して皆さんに提出し、じっくりと目を通してもらうこととした。今日は、その検討から始めていく。
- ・さらに、残りの時間で、条文の保留していた部分を少し検討して終了した。次回（今回）まで少し時間が空くので、資料を再度読んでもらった上で、今回からの条文検討に入ることを確認した。
- ・以上が、前回会議の確認。

前文案の検討

〔中山座長〕

- ・ 先ず、前回の会議で各委員から出された意見を基にまとめた内容を説明し、その後、笠原委員から提出されている案の説明をしてもらう。
- ・ 前回のものに比べ大きく変わったように見えるかもしれないが、実際には、並べ替えをしたことと、全体的に文体を揃えたということ。
- ・ 前回の会議で、未来に向かって、北見市は何を目指し、どのようなまちになるのかという宣言や決心などに関するようなことを入れて欲しいという要望があった。
- ・ いろいろ考えてみたが、共働の話も出ていたので、キーワードとしては「一体となって」ということではないかと思い、3つほど考えた。
- ・ まず、各地域が困難を分かち合いながら乗り越えていくという一体化。次に、市と市民が一体となり、市政やまちを創ること。それと、市民同士が暮らしの中で一体化して生活をしていく。これは共働きの所でてきた言葉である。
- ・ この「一体化」ということをキーワードにして、第2節に「私たちは、新しい時代に・・・遂行していく」という部分にその思いを入れてみた。
- ・ その他は、各委員から出されたものを組み替えた形にした。
- ・ そして、決心を示すため、わざと「私たちは」で始める言葉も多めに入れた。
- ・ 以上が、前回の文案から修正した内容。それに対して笠原委員から修正案が出されているので、説明してもらう。

〔笠原委員〕

- ・ 前回、前文案を協議したときに自分が言った意見を付け加えてみたもの。自分にとっては、具体的なイメージが湧くようにと修正、色付けしてみたただけのもので、これに固執するものではない。
- ・ 本当は、困難な自然の「豊かさ」は強調しているが、「厳しさ」も入れたかった。実り豊かではあるが、自然の厳しさを乗り越えながら、ここの地で、特に北見市については工業・ハッカやその他の工業的なものを目指してきたのだと思う。その結果、歴史や伝統、文化が出来た。
- ・ 特に、第2段落目の「明るい未来が約束されているわけではありません」という条文を創ったから、あるいはこのテーマを掲げたからといって、理想が実現されるということとは有り得ないので、この前文を読むことにより自分たちの手で創っていくという前文としての宣言もあるが、自分なりの決意を促せば良いということがテーマになっている。
- ・ 次の段落の「メインは一人ひとり」ということで、話が外れるが、今「自立分散システム」というインターネットのシステムがあって、これを構築した学者の1人が日本人らしい。この自立分散システムは、真に個々人がある意味自立していて、それがシステムとして繋がっており、どれかがダウンしてもシステムとしてはきちんと動くという話。
- ・ まちづくりも、このイメージに近いものと感じ、自分なりに色付けしてみた。
- ・ 前文の修正案が届いたので、他の委員もこれに対して加筆修正をしてくるのかと思っていた。

〔中山座長〕

- ・他の委員から修正意見をもらっていないが、皆から出された意見は出来るだけ盛り込んでいきたいと思う
- ・笠原委員から出された意見についても、委員の皆から賛同を得られれば、この意見でも良いかと思っているが、どうだろうか。

〔水口委員〕

- ・笠原委員の案への批判ではないが、気になる点がある。「工業的な都市を発展させる」とあるが、北見市は本当にこのことを求めているのだろうかという違和感を感じるし、今後求めていると思う。北見市は工業的な都市を目指しているわけではなく、これからも目指すべきではないと思っている。そのことを敢えて認識して、この言葉を使うということに対して非常に抵抗がある。

〔井上委員〕

- ・今の「工業的な都市」と、5行目の「未来を約束されているわけではない」という否定文があるが、まさに共働ということを出したいのであれば、最高条例の前文には、前向きな表現の方が良く、否定的な言葉は避けた方が良いと思う。

〔杉本委員〕

- ・笠原委員の案は、引き締め効果があり面白いと思った。
- ・実際に、最高条例だからとこれを作っても安心だということは有り得ない。
- ・自然のことよりも、これからどうするという意志の強さを打ち出した方が良いと思うので、笠原委員の案は意志の強さを感じる。ただ、言葉が少し強調（重複）し過ぎている部分があるとは感じる。
- ・また、座長が作った案の「市政に届き、調和され、活かされる」という部分は、市民意見が反映されるという言葉で代表されることを3つに分けて強調したように見えるが、これも単純に「反映される」ということでも良いのかなと思う。
- ・インパクトの効果でいうと、このような笠原委員の「約束されているわけではありません」と言い切ってしまう所からスタートするのも良いかなと思っている。その為にどうしたら良いのかという視点に立てると思う。
- ・どちらかと言うと、今までの前文は、これに沿って行けば良いというものだったが、ここで一度否定してリセットをかけて、さらに、ここから私たちはどのように進んでいくのかという問題提起、心構え、覚悟などを喚起させる言葉になるので、この否定文はなかなか良いと思っている。

〔中山座長〕

- ・各委員から一通り意見を訊きたい。

〔荒井委員〕

- ・この約束されているという文言は、使い方を誤る可能性もあり、相当な重みがある。これは皆さんと議論した上での言葉使いにしなければならない大事な文言だと思う。
- ・今ここで急に案を出されても、すぐに判断することは難しく、少し考える時間が欲しい。
- ・前回の会議で、インパクトがないという意見を出したことを考えると、この笠原委員の案は、前回よりは強調されていると感じるが、もっと内容を議論すべきだと思う。

〔合田委員〕

- ・笠原委員案の上から3行目「工業的な都市の振興をめざして…」に抵抗があるという意見があったが、それを除いて「近代に入り産業を興しまちを発展させると共に」とすると、すんなりと入っている。
- ・それと、事前に送られた座長案では「振興」という言葉が2つ重なっているので、ここで「振興」を削ると、重なりが解消される。
- ・次に「約束されているわけではありません」という否定文だが、オバマ米大統領の話も聞いて、厳しい現実を共有しようということが前提にあり、その後に変革と責任、そして私たちが出来るというメッセージが大事だと感じており、決して生易しいものではないということをしっかり共有して、だからこそ一人ひとりが自立して頑張っていこうという意味では、引き締め効果という意味ではあっても良いと感じている。
- ・最後の段落、「私たち～最高規範として」の部分だが、これは最初の案の「私たちは子どもからお年寄りまで自らの手でまちを創りあげていくために」の方が個人的にはしっかりといくと思っている。田巻委員が提案した言葉だったと思うが、この文言は入れて欲しい。

〔田巻委員〕

- ・修正案ということで笠原委員から出されているが、言葉1つを入れるとかなり変わってくると思っている。
- ・6行目について、現状をはっきりと言っていると思うが、市民といっても色々な立場の方がいる中で、「約束されているわけではありません」と言ってしまうので、個人的にはどちらかという無い方が良いと思った。
- ・中段の下辺りに、「一人ひとり」という言葉が2つ追加され、さらに「市民一人ひとりの声が」と続く。この言葉が3つ書かれることで、北見市民のためだということが強調されて、とても良いと思っている。これを入れることによって文章が良い感じに表現されていると思う。

〔橋本委員〕

- ・笠原委員の案は、具体的に表現されていると感じた。ただ「工業的な都市」という点が気になる点である。
- ・「約束されているわけではありません」という部分だが、これを「約束されているわけではないのです」と文末を変えると、少しは柔らかな表現になり、もっとすっと入っていける気がする。

〔三原委員〕

- ・先ほどから問題になっている「工業的な都市」という部分だが、北見市は工業団地も造成しており、そういうことも考えて一応目指していたと思うので、このことは別に問題ないと思っている。
- ・座長案は、歴史的なことや自治区の活性、格差がないことも含まれおり、市民の責任というものもしっかりと入っていて、素晴らしい案だと思った。
- ・他の都市を見たが、例えば豊田市の場合、非常に簡単に作られていた。あのような前文もあるので、北見市の場合はこれで十分、立派だという気がしている。

〔中山座長〕

- ・荒井委員から指摘があったが、前文修正案を事前に配布して各委員に検討してもらって、いたところに、今日提示された笠原委員の案を基本にするのは変な話なので、座長修正案として提示している内容に笠原委員が提示する言葉をどう付け加えていくのかというやり方が正しいと思う。

〔水口委員〕

- ・この前文はインパクトが弱い気がする。例えば「オホーツクの中核都市を目指す」と入れることが良いのかも分からないが、「工業的都市」を使うよりは、すんなりといく気がしないでもない。
- ・先ほど井上委員が言っていたが、どういう受け止め方をされるのかという気がする。
- ・座長案は、いろいろなことが含まれていて良くまとまったと思っているが、何かインパクトに欠けている気がする。それが何なのかは分からないが、「オホーツク中核都市を目指す」のような大きな柱となる言葉を入れた方が良いと感じている。

〔中山座長〕

- ・笠原委員の案の5行目「約束されているわけではなりません」と7行目の「苦難の歴史」が気になった部分で、あとは問題ないかと思う。

〔水口委員〕

- ・杉本委員が言っていた、現状はそんなに甘くはないということを書くのも分からないわけではないが、条文としてとなると気になる表現だと思う。
- ・この言葉は別な所では使うべきだと思うが、基本条例になっていくと、どうなのかという気がしている。

〔中山座長〕

- ・ポイントになる所は、出来る限り意見を取り入れたい。
- ・例えば、「工業的な都市をめざす」は「中核都市をめざす」と同じく、少し抵抗を感じる。

〔水口委員〕

- ・確かに目指してきたのだろうが、北見市は基本的に間違った方向を目指したと思い続けている。

〔中山座長〕

- ・その辺の考え方の整理が必要だが、田巻委員から「一人ひとり」という文言を3回重ねているのは非常に良いという意見が出た。先に、それに関する話を進めていきたい。
- ・3段落目「一人ひとりが互いに思いやりを持ち、一人ひとりが安全で安心して...、市民一人ひとりの声が...」と繰り返すのは良いとの意見が出された、他の委員はどう思うか。

〔杉本委員〕

- ・座長案の方に「市民一人ひとりの声が市政に届き、調和され、活かされる...」とあるが、この「届き」というのは、距離を想定しての言葉ではないか。もともと市民の声は届くのが当たり前で、「届く」のではなく「反映される」だと思う。
- ・市政に届きというのは市民が弱い立場にありそうな感じを受ける。この「届き、調和、活かされる」という言葉は、単純に「反映される」で良いのではないか。元々、市政は市民の声が反映されるべきものなので、「届き、調和、活かされる」はまずいと思う。

〔中山座長〕

- ・話が飛んでしまったが、「一人ひとり」についてはどう思うか。良いと言うなら、それで進めていきたいので。

〔杉本委員〕

- ・「一人ひとり」と同じことだと思う。笠原委員が強調しようとしていることと、市政にどうやって反映させるのかという具体的なものは同じだと思っている。

〔中山座長〕

- ・採用するのかもしれないのかを訊きたい。特に意見はないのか。他にサポーターがいなければ、「一人ひとり」を繰り返し使うことは却下する。
- ・次に、杉本委員が言った「届き、調和され、活かされる」について、「届き」は届くことが前提なので抜いて「市政に反映され、活かされる」となるのだろうか。

〔杉本委員〕

- ・市政に反映される市民自治を育てなくてはならないということだと思う。
- ・その「反映される」を笠原委員は具体的に、一人ひとりが「思いやりを持ち、安全で安心、実感できる」と強調して言っていて、全く同じものだと思う。その部分で強調するかもしれないかである。

〔逢坂副座長〕

- ・一人ひとりという要素は大事だと思うが、3回同じ言葉が出てくるのはどうだろうか。

〔中山座長〕

- ・「一人ひとりが互いに思いやりを持ち」の「一人ひとり」は主語になるので、通常、この部分は省くことになるのでは。

〔水口委員〕

- ・笠原委員の案をそのまま使った方が良いと思う。敢えて削る必要はない。この文面は、みなさんに理解してもらえるものだと思う。

〔笠原委員〕

- ・自分としては、前文原案を読んで、もう少しメリハリを付けた方が良いと思ったので、自分なりに考えたものを提出した。
- ・先ほど、インターネットの自立分散システムの話をしたが、もう1つ、市役所で行っている総合計画やその他についてはローリングプランと言われていて、これは基本的に計画的、年次的にやっていくものである。
- ・それと同時に、コンティンジェンシープラン、緊急時対応計画や不測事態対応計画、危機管理計画などといわれるものがIT情報マネジメント用語辞典に出ている。
- ・なぜ、この話をするかと言うと、今までは行政が危機管理対応をしてきたが、今回の条例案を検討して来た中では、それだけでは足りず、不測の事態、想定していない場面に對してどういう形で地域が対応をしていくのかということが、今回の条例案の中にその内容として「共働」という用語によってローリングプラン、市長が代わっても関係なく行政の計画として見直されていくこととは別な形での緊急対応をするということ。
- ・この緊急対応については行政側では決められないので、まちづくりの生活する人間として、個々人がそういう意識を持つということだと思う。

- ・日本語で言うと「非常事態発生時対応計画」などという名目で作っている所もあるようだが、これが市民に対しても喚起することだと思う。
- ・北見市がこれを作ったとき、断水などいろいろなリスク管理の部分がなかったので、それがみなさんの頭にあり、安心安全などの危機管理に対しても行政だけでは対応しきれないことが分かって、市民一人ひとりが自分たちの安全安心を考え、今後生活をしていかななくてはならないというような内容が、今回の条例素案の中には大体活かされている感じがする。
- ・他のまちの条例と比較をして違うのは、そういうところだと改めて感じたことが、このように「くどい」表現をした理由である。

〔中山座長〕

- ・少なくとも3人の委員からはサポートするとの声が出ていることもあるので、前文案に「一人ひとり」を付け加えることとして良いか。

〔井上委員〕

- ・座長案の「届く」という方が、直ぐそばにという感じを受けるが、笠原委員が提示した「生かす、反映される、実感できる」というのはどうなのだろうか。そこまで深読みしなくても、一般市民がさらっと読んだ時に、すっと入った方が単純で良い気がする。

〔中山座長〕

- ・それはそう思う。
- ・ただ、読みやすさという点については、以前の案では、子どもやお年寄りであったが、他の文章とレベルを合わせるために、省かざるを得なかったということがある。

〔井上委員〕

- ・前文というのは、基本的にキーワードが入っていて、あまりくどくなく、1回読むだけですっと入るものが良いと思う。

〔杉本委員〕

- ・さらっと聞き流せるということは、多分、残らないということになるのではないか。

〔井上委員〕

- ・そういうことではない。簡潔にという意味合い。

〔中山座長〕

- ・「生かされ、反映され、実感できる」という順番は永続性が保たれていないと思う。生かされる、反映されるは領域に入り込んで、同じ意味を重ねていて、一人ひとりもそうで、そうすると実感するも同じで、重なりが多いと感じる。

〔杉本委員〕

- ・笠原委員は意識していると思うが、韻を踏んでいる。それはあり方として良いと思う。

〔井上委員〕

- ・生かすと反映されるの違いになると、一人ひとりの声が市政に届いて、それが市政と調和されて、その声が最終的に生かされるとなると、連続性で何となく分かる気がする。

〔中山座長〕

- ・それだとすっと入ってくる。ところが、生かされ、反映されとなると、行って戻って、行って戻ってという感覚を受ける。

〔井上委員〕

- ・そういう意味で、決して、忘れてしまうという「すんなり」ではなく、1回読んだときに理解できる簡潔さを例えているのだが。

〔中山座長〕

- ・ここは強調部分と重なるので、上の文と一緒に考えたい。
- ・「私たちには、必ずしも明るい未来が…」の部分は気になっているが、みなさんからの反対意見も多かった。あまり良いニュースがない中では、このようなことが出てくるのももっともだと思うが、私のように移住して来た者から見ると、正直、このような前文が書かれているようなまちには住みたくない。

〔井上委員〕

- ・すごく暗く、未来がない感じを受ける。

〔逢坂副座長〕

- ・今の議論の中での「必ずしも明るい未来が約束されるわけではありません」という意味合いは、その通りだと思う。この部分はインパクトとしてはあると思うので、少し言葉を置き換えて危機感を醸し出すということにすると良いと思う。こんなまちには住みたくないと言われても困る。

〔井上委員〕

- ・明るい未来を創るためとか、築くためといったプラスのストロークで言った方が良いのかなと思う。前文の場合、否定文だから引き締め効果があるとは考えない。

〔中山座長〕

- ・そう思う。オバマの演説も最後は「何があっても大丈夫」と非常にポジティブになっている。これは、何があっても大丈夫だと後で言っていない。

〔井上委員〕

- ・これでは、未来が約束されていないということ。子どもたちが読むと悲しむと思う。

〔中山座長〕

- ・ただ、インパクトのある言葉が何か入った方が良いということなので、「未来が…」という否定形と「一人ひとり」を重ねるかどうかを併せて考えてみる。これを少し修正して追加できれば良いと思う。
- ・それから、先ほど出た「工業的な都市」についても違和感がある。同じ感覚の委員もいると思うが、皆さんの意見を聴きたい。ただ「産業を興す」という言い回しもあり、これは重複を省くことになると思う。

〔合田委員〕

- ・「オホーツクの中核都市を目指している」という表現は、いつ頃からどんな形で出てきたのか分からないが、何回か目にはして、いつの間にかそういう自覚を自然に持っている部分がある。だから、近代に入り、オホーツクの中核都市を目指してまちを発展させてきたという部分が、現実として心の中にあると思う。

〔杉本委員〕

- ・よく中核都市と言うが、北見が中核都市であり得るのかどうかというと、その努力は全くしていない。

- ・もしも中核都市でありたいという自覚があるなら、そのような施策を今までやってきても良いものだが、全くその責務も何もなしにやっているのだから、逆に、何十年も前に中核都市を目指すと言ったことで安心してしまったのだと思う。そして、無反省のまま流れてきたところはあると思う、北見市は。
- ・例えば、病院問題にしても、北見市だけの問題ではなく、広域行政の中でやらなくてはいけないものにも一切働きかけていない。
- ・中核都市たる理由も意欲も形式が全くないようなまちなので、中核都市という言葉だけは使わない方が気がする。使ってその気になっている感じがする。

〔荒井委員〕

- ・オホーツク圏域ということでトータル的に北見市を見たときに、中核都市という気構え心構えを市民一人ひとりが持つべきだと思う。
- ・過去の事を言えばそうだったのかもしれないが、やはり人口規模、地域、置かれている環境を見たときに、このオホーツク圏をリードしていくという想いは、自覚として市民一人ひとりが持つべきだと思う。
- ・その上に立って、この条文は作られてきていると思う。それが北見市民の基本だと思っている。網走、紋別とは違う、何が違うのか、そういう想いがなければ中核都市としてリードしていけない。
- ・この中核都市というのは非常に重たいものでもあるし、ある意味ではオホーツク圏域に住む北見市民としての使命だと思っているので、是非ともこのような文言をどこかに入れて欲しい。

〔水口委員〕

- ・荒井委員の今の見解に近い考えを持っている。はじめにこの言葉を読んだときは、杉本委員の考えと同じような理由で多少の抵抗はあった。
- ・しかし、それは過去のことであり、これから真面目に中核都市を目指していかなければオホーツク圏自体がおかしくなると思うし、それを引っ張って行くのは北見市だと思う。
- ・だから、そうした意思や心構えを含めて、「中核都市」という表現は正しいのかどうか分からないが、それに近い意思表示をここできちんとした方が、この条例のインパクトが強くなると感じてきている。

〔杉本委員〕

- ・本来はそうだと思う。それが出来れば良いが、中核都市を前文に入れるとするなら、後ろにある最高条例としての内容は、その見解で作ってきたという感じがする。中核都市であるならば、もう一度中味を総点検して、もう少しやらなければいけないと思う。

〔荒井委員〕

- ・そういう思いで今日まで至っていると思う。今の言葉を、そういうことで39回重ねてきたのなら、非常に残念なことだ。

〔杉本委員〕

- ・実際に思い返してみると、広域行政や他町村との調整などのことを洗い直さないと、中核都市の責務などと言っても机上の空論に留まってしまうので、もし謳うのであれば、もう一度振り返ってその部分を強化しなくてはいけないと思う。

〔水口委員〕

- ・そんなことは必要なのか。こんな地域を目指していくということは書いても良いと思う。

〔杉本委員〕

- ・書くことは悪くはないが、最高条例の文言としては、まだ弱い所があると思う。

〔荒井委員〕

- ・そうであるならば、前文案に戻るが、中段に「情報を分かち合い、意見を交換すること」とあるが、この意見交換というのは今までの議論の中で、どれだけそういう組織があるのか。今、敢えて言うならまちづくり協議会くらいだと思う。ただ、まちづくり協議会といっても、周知のとおりその程度のもので、そういう意味では寂しい思いはある。
- ・意見交換と謳いながら果たしてそれが何なのか、これだと言えるものがない状況。

〔杉本委員〕

- ・前文で全体のスタンスが決まってくると思う。そうになると、そのスタンスに合わせて、また点検しなくてはならないということが出てくると思う。

〔荒井委員〕

- ・それは必要だと思う。どの程度まで戻るかということはあるが、そうになると、なかなか先には進んでいかないので、その辺は非常に難しいと思う。

〔高橋委員〕

- ・引っ張っていくという気持は大事だと思う。ただ、「自称」中核都市では駄目だと思う。やはり自他共に認める形にならなくてはいけない。
- ・自分はもう少し柔らかく、周辺地域の反映は北見の反映だろうと考える。その方が中核都市としてリーダーシップを取っていくというスタンスよりも受け取り易いと思う。
- ・今まではやっていないし、やっていくには、いろいろなことが絡んでくると思う。例えば市税の使い方にしても、市民からの反発は出ると思うし、それを理解させていく努力はとても大変だと思う。
- ・中核都市とは、以前出ていた協働と一緒に、言葉として現実と実施とが乖離しているのではないかという思いがある。
- ・自分は去年、東藻琴で廃屋をどうにかしようという活動をしたが、それがきっかけで、東藻琴の商工会が国から莫大な予算を貰ったので今年も依頼されているが、こうしたことをみんなでやっていくつもりがあるのか、ということ。
- ・北見市だけと考えるのでなく地域全体でと考える覚悟があるなら、中核都市という考え方でこのオホーツク全体の地域を引っ張ろうと持っていくことは大賛成である。

〔荒井委員〕

- ・同時に、こうやって条例を作る機会を与えられたということは、各委員には責務があるということで、それは、それぞれの場面（地域等）においても、ある意味でのリーダーということになる。
- ・ただ作って、後は人任せということにはならない。作ったからには当然、この条例の先駆者として地域等をリードして積極的に関わらなくてはならず、当然、そうした責務があることを自覚した上で条例作成に携わっていると思う。これは非常に大事なことだと、当初から思っている。

〔中山座長〕

- ・他の委員の意見も訊きたいが、併せて訊きたいことがある。
- ・他の条例を見ると、すんなりと入ってくる文章が多い。例えば、市の紹介をする場合にも、北方圏の拠点という札幌市、道東の中核都市は帯広市、港を中心に栄えて来たと言うと留萌市というように、誰もが読んですっと分かるような文章というのは大事だと思う。その点、北見市が中核都市だと言うと、誰が頷くのかという疑問はある。

〔杉本委員〕

- ・中核都市とは違うのかもしれないが、中心市街地などの「中心」というものがある。中心が中心であるためには、周囲にどれだけ利益を分配できるかということがなければ、中心を維持できない。
- ・他の産業的な拠点（紋別や網走は漁業の中心である）であれば、市民に対して分配がなされてきたと思う。なぜ、北見市の中心市街地が寂れてきたかという、周囲に対しての利益の分配を心掛けなかったから。とにかく客を集めれば良く、集中させるためだけの中心市街地だった。その状況からも、分配をするというように市民生活に密接な商品を兼ね備える、北見に来ればこの商品があるというように、市民サービスを心がけている中心市街地で、そういう利益の分配があったなら寂れなかったと思う。
- ・だから、中核都市や中心であり続けたいのなら、周囲に対して利益の分配がどれだけ出来るのか、その実力を多方面で蓄えられるのかということ。その観点を持たなければ中心であり続けられない。
- ・規模の問題ではない。その規模は、たまたま運良く人口が集中しただけの話で、何年かすると離散してしまうこともある。

〔荒井委員〕

- ・利益の分配ではないと思う。中心市街地というのは、そこにいる市民が「一人ひとり」と同じように、利益の分配で市街が活性化するとは思えない。やはり、そこにいる市民、そこに住居を構えている人がというところがスタートだと思う。
- ・北見市も同じでこのオホーツク圏を見たときに、北見市民一人ひとりがスタートだと思う。その思いを持つか持たないかということだと思う。

〔杉本委員〕

- ・そこで市民活動や北見にいる人たちが頑張っているいろいろな活動をする。その影響が他の市民に派生して、その人たちも影響されていく。
- ・今までの北見市は、置戸からも留辺蘂からも訓子府からも利益を集めてしまって、その後がない。

〔水口委員〕

- ・視点が違うし、言っていることが逆だと思う。過去はそうだったかもしれないが、これから新しいものを作ろうとしている。だから、その意味でこのことを書かなくてはいけない。確かに過去は、端野から見ても北見市は勝手なことを言っていると思っていた。しかし、今回新しいまちを創ろうとしているのだから、北見も端野もみんな含めて、そういう意識を持ってやろうということ。中核都市という表現は正しいのかどうか分からないが、とにかくこの地域の中心で頑張ろうということを書くべきだと思っている。

〔杉本委員〕

- ・だから、中核都市と謳うときには、そういう覚悟でやらなければならないと言っているだけで、その覚悟が条例の中にフィードバックして洗い直さなければならない部分もあるということ。

〔水口委員〕

- ・今までやってきただろう。

〔荒井委員〕

- ・みんな、そういう想いでやってきている。原点が間違っている。

〔中山座長〕

- ・話を整理する。中核都市になるべき、ならなければいけないという議論がとても大切なことは分かるが、まず現実を見て、北見市が中核都市であると周りの人が思うかということ、私はそうは思わない。しかし、敢えて中核都市という言葉の前文の中に入れるかどうか、その議論に集中してもらいたい。

〔合田委員〕

- ・先ほど、条例の中に否定文が入ると「こんなまちには住みたくない」とはっきり言われたが、この気持ちはとても大事だと思う。だから、そういう気持ちを起こさせる文章はいけないと思う。
- ・やはり、次世代のために「オホーツク中核都市を私たちは目指していく」という決意を入れ、そこを目指してみんなが頑張っていくことが大事だと思う。
- ・どんな風に頑張っていくのかということ、ディズニーランドの話をするが、あそこは1度行った人は何度でも行きたくなる気持になる場所。人を呼ぶのはなぜなのかということ、「来られる人はみんなお客様」という教育が徹底されていて、園内の掃除も素晴らしい仕事だというように教育を徹底している。
- ・だから、私たち北見市民がこのまちで生きる上で、本当に魅力的なまちを目指していくにはどうしたら良いのかを一人ひとりが考え、それが条文に生かされることが大事だと思うが、とにかく、次世代に希望を与えるような、目指すべき言葉が欲しいと思う。

〔井上委員〕

- ・中核都市という言葉の入り方だと思う。

〔中山座長〕

- ・中核都市という言葉でなくても良い。代替案があれば出してもらいたい。

〔三原委員〕

- ・これから目指していくのだから、中核都市という言葉でもおかしくはないと思う。

〔笠原委員〕

- ・その前に「工業的都市」と書いたが、昔の都市のあり方というのは、中核都市などという話ではなく、工業を中心とした町、農業を中心とした町、人口規模が大きいと都市であるなどという発想だったと思う。しかし、今後の都市を目指す場合、いろいろな分野があり、産業にしても実際には1次から3.5次くらいまである。北見の場合どれを中心にするかとなれば、4自治区それぞれの自然的条件と同時に、社会的、文化的な条件があると思う。

- ・ところが、今のまちづくり、都市づくりの基準というのは、単純に産業育成ではなく、地場の技術開発がなければならない。そうでなければ、本州の大手メーカーの品物を買う、売るだけの話で終わってしまう。そうすると、北見工大の意味合いはどこにあるのか。
- ・それと同時に、医療や民生や教育などがいかに都市化できていくのかということが最近の都市の目指す方向性だと思う。その中で、安心・安全、地域福祉、社会福祉というものが出てくる。
- ・具体的に考えた場合、中核と都市を別々にしたとしても、個人的にはドクターヘリもエリア的にしか考えていないが、そういう範囲内であれば、ある意味現実的な今後の目指す方向は、目指すも目指さないも、要求としては中核的な機能を要請されていると思う。ただ、その次の都市の部分、北見は都市であるということは、今後どういう形の都市として発展させていくのかということだと思う。
- ・そして最近、自然産業の第1次産業を1.5次産業まで上げて加工までやる。それを外に売り出す。それをさらに技術開発するための拠点としてどこを使うか。そういう発想で4自治区の機能分担が市民にもイメージ的にはおおよそできていると思う。ただ、具体的に市民の税金でどこにどうやってお金をかけながら人材の育成や技術を高めるなど、結果的に、ここでしかできないものにすること。
- ・ここで出すものは、北見市以外からお金が入る形でなければならない。このことは周辺に対して云々と言う以前の話だと思う。
- ・4自治区を有機的に結びつけ、全国的に商業的な位置で北見の独自性を発揮できる機能として、ここに住む人間が恩恵を受けながら新しいまちづくりをしていくものだと思う。ただし、予測できないようなことも有り得るので、この部分はお互いにという形かなと思っています。

〔井上委員〕

- ・総合計画の中では限定して「オホーツク連携地域の中核都市」と使っている。あくまでもオホーツクという感じではないか。

〔中山座長〕

- ・この辺りの人たちは「オホーツク地域」と呼ぶことに抵抗はないのだろうか。オホーツクというのはロシアの名前ではないか。
- ・他に北網圏とか道東とかという表現もあるが。

〔杉本委員〕

- ・いずれにしても、将来的な目標や希望があるような「中核都市的」なものを謳い込めば良いと思う。そのために条例をどうするのかということ。
- ・中核とは何だということがあった。今の中核とは、産業構成自体に流通や通信が出てきて中核自体の意味がなくなり、「中」がなくなり「核」だけで十分になってきていると感じる。この中核という言葉自体も考えた方が良く思う。

〔中山座長〕

- ・「拠点」は北見で使い難い。拠点というと開発局などがある網走というイメージを持つ。

〔杉本委員〕

- ・だからといって、中核なのかという感じもする。何か中途半端な感じだ。

〔井上委員〕

- ・それなら敢えて使わない方が良い。そして、暮らしと産業の振興を目指すということにしたら良いと思う。中途半端な形で中核都市という言葉を入れない方が良いと思う。

〔笠原委員〕

- ・「オホーツク」という言葉はアイヌ語で、スペルはロシア語だ。
- ・先日の新聞に増田元総務大臣の記事が載っていたが、北海道は下（東京）を向かないで横を向いた方が良いのではないかと saying いた。そういう意味からも、日本の北見であろうとオホーツクという用語を使っても良いのではないか。今後のことを考えると、地域的な自立もあるので「オホーツク」に関しては、さほど抵抗や違和感はないと思う。
- ・「中核都市」というのは、基本的には道州制などとの行政的な流れから言うと、旧来の14支庁制度は中央集権的な統一スタイルだった。その行政的な中心が網走にあるが、ここが発展してきたのかということとそうでもなく、全く別な意味で北見市の方がこの辺では中心的役割を担わざるを得ないだろうと思う。この周辺から見ても、それほど違和感、抵抗感があるような見方ではない気がする。

〔中山座長〕

- ・今の話だと「オホーツク地域の中心として」という言い方であれば良いのではないか。

〔逢坂副座長〕

- ・基本的には、この条例と長期計画とを使い分けると言う両輪の意味合いがあると思う。「中核都市」はどちらかということと長期計画的な物の考え方だということで、この条例で敢えて使うとすれば、そういう固有名詞ではなく、今話が出た「中心になる」というようなことだと思う。確かに、今は網走が行政の中心だが、道警本部や財務局は北見市にある。
- ・もうひとつは、北見市は「中核」というより「中心」になれる機能や財産を持っているというのは日赤があるからである。この日赤は絶対の財産であり、北見市の財産ではなくオホーツク圏の財産だという意識付けで、紋別市、網走市を含めた圏域の中で、我々がどういう役割を果たし、みなさんに少しでも役立ってもらえるかということは、まちづくりの方向としてあった方が良く思う。

〔中山座長〕

- ・今の話は「オホーツク地域圏の中心として」ということで良いか。

〔高橋委員〕

- ・条文の話になるが、第11章「国、北海道及び他の自治体等との関係」で、逆にオホーツクの中心やオホーツクのリーダーシップとしてという形にしたら良い。今の条文はマイナスを埋める程度しか欲張っていないので、これがゼロをプラスに、2を2×4にするような感じで持っていけば、実際の政策としても中心都市としての地域広域施策をやらざるを得なくなり、やってもどこからも突っ込みはなくなると思う。
- ・今やらなくてはいけないことは、北見市がどの程度までオホーツク地域を引っ張ることができるのかという現状把握と、市民にそういう意識があるのかということだと思う。

〔中山座長〕

- ・そうなると、決心が出てきて、インパクトというものも多少出てくると思う。

〔高橋委員〕

- ・条例に裏付けが出てくれば、前文に書かれていても良いことになる。

〔中山座長〕

- ・「オホーツク地域の中心」という言葉を入れることにする。これであれば、誰が読んでも納得してもらえらるだろう。
- ・「必ずしも明るい未来が約束されているわけではありません」という文言にはインパクトはあるが、これは外した方が良いと思うがどうだろうか。

〔笠原委員〕

- ・あまりにも平坦で、順風満帆で来たような感じを受けるので書いてみたが。

〔中山座長〕

- ・下段の「一人ひとりが」を生かして「オホーツク地域の中心」を入れることで、これを消してもおかしくない気がする。できる限り笠原委員の案にある「苦難を乗り越えた地域社会」や「先人が歩んで来た歴史や伝統に学び」等々は、強調された文章になっていると思う。
- ・その辺をこちらで修正したものを送付するので見てもらいたい。

〔笠原委員〕

- ・先ほど出ていた「市政に届き、調和され、活かされる」の部分はどうなったのか。

〔中山座長〕

- ・「市政に反映される」とした方が良いという意見があったので、そうしたいと思うが。

〔笠原委員〕

- ・これであれば、市政に声を届けて調和ということは、行政と市民が調和されるという意味合いに受け取れる。そして、その声はどちらかと言うと行政に活かされるという風に捉えてしまう。そうすると、距離感があって最終的にはお任せをするという意味に取りかねない。

〔中山座長〕

- ・だから、それを杉本委員から提案された「市政に反映される市民自治」と直すとどうだろうかということだった。

〔笠原委員〕

- ・ただ、市政にだけ反映されても、市民が実感できなければ駄目ではないか。言うことは言っても、それではお願いだけで終わってしまう。その時にフィードバックされて、さらに、それをどうやってやるのかというサイクルがなければ駄目だと思う。そうでなければ、自分ではやっているつもりが、いつの間にか前と同じような状況に陥ると思う。

〔杉本委員〕

- ・そうかもしれない。市民自治を育てなければならぬということからいくと、市民一人ひとりの声が活かされる市民自治を育てる、どちらかと言うと市政は関係ないと思う。明確に区別するための市民自治でないとは思いますが。

〔中山座長〕

- ・いろいろな意見が出たが、なるべく杉本委員の意見も反映したいと思う。そうすると「市民一人ひとりの声が活かされる市民自治」で良いか。

〔杉本委員〕

- ・この市民自治は、住民自治を翻訳したものという認識で良いか。

〔中山座長〕

- ・そのとおり。

〔高橋委員〕

- ・「市政」という言葉はない方が良いのか。

〔杉本委員〕

- ・市政には当たり前前に反映されていなければいけない。それよりも、きちんと市民自治ができることになっていなければならない。どちらかと言うと、市政は市民自治の一部である。

〔中山座長〕

- ・各委員から出された意見をまとめた一番初めの前文案には「市政」という言葉は入っていない。何回か話し合っているうちに入ったのだと思うが、元の形に戻すことにして、ここは「市民一人ひとりの声が活かされる市民自治」とする。
- ・その他の部分は、こちらで修正する。後日、修正案を送付するので確認してもらいたい。

条例素案（個別条文）の確認

〔中山座長〕

- ・続いて、個別条文の検討作業を進めていく。
- ・資料冒頭の概要は、条例素案全体を再確認した後で見た方が良くと思うので、7ページの条文から確認していく。

第1条（目的）

〔中山座長〕

- ・1回目の協議では「安全・安心」の記述が保留になっていたが、この文言は前文の中でも盛り込む方向になっている。前回の協議では、杉本委員から「安全・安心」という言葉の記述に抵抗感が示されていたが。

〔杉本委員〕

- ・個人的な感覚なので良いのかどうかも分からない。他の委員が言うように、分かりやすくするために「安全・安心」を再確認することは良いのかもしれないが、陳腐化しないことを願うだけ。

〔中山座長〕

- ・ここでは「安全・安心」が一番のネックだったが、その他に意見等はないか。

〔高橋委員〕

- ・前文で「中核都市」を入れるつもりなら、目的にも加えた方が良くないか。

〔中山座長〕

- ・前文で謳っていることを目的にも盛り込むことはできるのか。

〔事務局～企画課長〕

- ・この条項は目的であり、何が目的かという、条文の最後「自立したより良い地域社会を築くこと」である。
- ・決意を示すようなものは前文に書かれることになると思う。

〔中山座長〕

- ・確かに、この条例の目的はオホーツク地域の中心になることではないので、前文の中で整理することとする。

〔笠原委員〕

- ・条文に「議会及び市長等」とあるが、議会に議員を含めて良いのか。議員の役割や責務は、議会のそれとは別のものではないのか。議会は審議する場で、議員には市民と対話しながら意見を述べていくという責任や役割がある。
- ・他に議員というものが出てこないの、議会に含めてしまって良いものかという疑問を持った。

〔事務局～企画課長〕

- ・議会とは、議員の集合体である。

〔杉本委員〕

- ・第14条に議員の役割及び責務があるので、これでクリアできないか。

〔笠原委員〕

- ・ここは目的なので他の条文とは直接的な関わりはないが、議会というと議員個人という意識が薄いので、別に表した方が良いのではないか。

〔事務局～企画課長〕

- ・他市の例では、札幌市の条例は目的で「議会及び議員並びに市長…」となっている。

〔笠原委員〕

- ・議員には個々の責任、役割がある。もちろん、議会は議会で役割と責務がある。
- ・議員は政務調査費を貰っているの、普段は市政を調査する義務がある。
- ・議会は議員の集まりで、行政そのもののチェック機能を果たす。

〔逢坂副座長〕

- ・目的はこのままにして、第4章のタイトルを「議会・議員」にしてはどうか。

〔笠原委員〕

- ・選挙で選ぶのは議会ではなく議員。そして市長も選挙で選ばれる。

〔杉本委員〕

- ・札幌市のような書き方は、意思のある者、市政に責任がある者というくりだと思う。

〔中山座長〕

- ・議会に議員を含めた方が、これまで検討してきたことが活かせるのではないか。分けてしまうと、他の関係条文も全て書き直さなければならなくなる。

〔事務局～企画課長〕

- ・議会及び市長等という表現が結構出てくる。
- ・札幌のように目的において議会及び議員としている所もあれば、平塚市は議員と議会の責務をそれぞれ掲げているが目的では議会しか出していない所もある。

〔杉本委員〕

- ・議会と議員では機能が違う。

〔逢坂副座長〕

- ・議会は機関で議員や市長等は人、確かに性格が違う。

〔中山座長〕

- ・それらを並列にするのも違和感がある。
- ・ここは、議会に議員を含めた方が良いと思うが、笠原委員はどう考えるか。

〔笠原委員〕

- ・本来は、議員の集合体として議会があるという認識だが、議会基本条例が作られることを願って...

〔事務局～企画課長〕

- ・目的の部分だけはそういった表記をするという方法も考えられる。現実には、この条例では議会の責務と議員の責務に分けて表しているのだから、そのように書いても間違いではないと思う。

〔笠原委員〕

- ・第14条についての前触れのような形になる。

〔中山座長〕

- ・ここだけに議員を出すことは可能ということか。

〔事務局～企画課長〕

- ・その後に出てくる条文のことを考えると、そのこと目的で謳って、他の議会は意思決定機関としての位置付けにすれば良い。

〔中山座長〕

- ・もし、それで問題がないというのであれば、札幌市のように議会、議員、市長等と列記してはどうか。

〔杉本委員〕

- ・職員は必要ないのか。

〔笠原委員〕

- ・北見の場合、市長「等」が付いているので職員も含んでいると解釈できる。

〔事務局～企画課長〕

- ・札幌市と同じような並びで、議会及び議員並びに市長等として良いか。第5章では市長とその他の執行機関、職員に分かれているが、「等」ですべてを指しているのだから問題ない。それで、個別条文に出てくる内容との整合性も取れると思う。

〔逢坂副座長〕

- ・市長等の中に職員は含まれるのか。

〔事務局～企画課長〕

- ・含まれる。

〔中山座長〕

- ・用語の定義とも関連してくるが、次の条が用語の定義なので、そちらで検討する。
- ・条文の形は決まったが、条文の解説文について意見等はないか。

〔井上委員〕

- ・条文に「議員」を加えるなら、解説文も同じようにしなければならないのでは。

〔中山座長〕

- ・他に意見がないようなので、解説文については、条文の修正に対応する形で「議員」という言葉を付け加えることとして、それ以外は案のとおりとする。

第2条（用語の定義）

〔中山座長〕

- ・次に、言葉の定義に関する条文を確認する。
- ・前回会議の協議において、「まちづくり」の説明は言葉を前後入れ替え、「安全で安心な暮らし易い地域社会を創り上げ、市民の快適な生活環境を確保するための活動総体」としていたと思うが、確認したい。

〔事務局～企画課長〕

- ・そのように、前回会議録のまとめ（22ページ）に書かれている。

〔中山座長〕

- ・その他、意見等はないか。

〔笠原委員〕

- ・これを第3者に読んでもらったところ、「地域社会」の区分が分からないと言われた。
- ・この言葉は条例のいろいろな場面で出てくるが、ここでいう「地域社会」は北見市全体なのか、自治区なのか、町内会単位なのか、判別が難しいとの感想を受けた。
- ・自分で読んでみても、どうやって区別したら良いのか困った。今後、条文全体を再確認していくが、各委員も読んでみて表記方法を考えてもらいたい。おそらく、形容詞の部分かとは思うが。

〔中山座長〕

- ・先ほど、前文の話の中で「オホーツク地域の中心」ということが出たが、そうすると、地域社会とはかなり広範囲になる。

〔笠原委員〕

- ・今回、敢えて「コミュニティ」という言葉を使わなかったという経過があるが、逆に、そのために「地域」の概念が曖昧になってしまった。
- ・ここでいう「まちづくり」の地域社会といった場合、都市基盤や社会保障施策等ではなく、町内会単位程度のものを指していると捉えられても困る。
- ・その辺は、読んで理解してもらえるような表記にすれば良いかと思う。

〔中山座長〕

- ・事務局に訊くが、このような場合の「地域社会」とはどういうものを指すのか。定義の説明なので、どこの地域社会なのかを問われる可能性がある。

〔事務局～企画課長〕

- ・北見市全体を指す場合もあるだろうし、それぞれの自治区を指す場合にも「地域社会」を使う。もしかすると、もっと小さい町内会単位を「地域社会」と使う場合もあるかもしれない。定義といっても一概には言えないのではないか。

〔中山座長〕

- ・今のことが定義なのか。いろいろなスケールの範囲を含むので、敢えて「地域社会」を使うということでは。

〔事務局～企画課長〕

- ・いろいろな形があると思うが、何気なく使っている言葉である。

〔事務局～企画担当係長〕

- ・生活そのものを指しているのではないか。そうすると「生活環境」などと表現を変えた方が分かり易いかもしれないが。

〔逢坂副座長〕

- ・使う場所によって捉え方が変わってくるので、定義しづらい言葉だと思う。

〔中山座長〕

- ・「まちづくり」というものは、時間的にも空間的にもいろいろなスケールを含んでいるので、そういう意味では「地域社会」というのは便利な言葉なのだろうと思う。
- ・そうすると、解説の中で何か説明をした方が良いのだろうか。

〔笠原委員〕

- ・この解説文からいくと「この条例では」と限定されて「地域社会」に掛かってしまうと狭い範囲に捉えられてしまう。ここで話してきたことは、エリアも分野もすべてを含んだ「まちづくり」だったはず。
- ・目的からいうと、解説文の文末「地域社会を～活動の総体」そのものだが、文頭にこのような説明文が付いてしまうと、それを除外した形だと捉えられかねない不安がある。

〔事務局～企画課長〕

- ・「まちづくり」は大きい、「市政」よりも大きい。そこの中での地域社会と言っている。

〔笠原委員〕

- ・ただ、概念的には「まちづくり」が「地域社会を創るため」と説明している形になる。

〔高橋委員〕

- ・地域の規模を限定しなければならない条文は、どこかにあったか。

〔笠原委員〕

- ・自治区の設置や地域自治などの項目で関わってくる。
- ・先ほど提案したように、用語の定義だけではなく、指しているものがおおよそ同意できれば説明し易いと思う。

〔中山座長〕

- ・この解説だと、この条例でいう「まちづくり」に住民活動は入らないようにも読み取れるが、そういうわけではないと思うが。

〔笠原委員〕

- ・でも、説明文では「～ありますが」という逆接の表現になっている。

〔井上委員〕

- ・「～あります。」にすると、全部を含んだ形になるので、良いのではないか。

〔中山座長〕

- ・その後、それをサポートするための「公益的な活動の総体」と言うと分かり易い。

〔高橋委員〕

- ・北見市の条例なので、「地域社会」を「北見市」と言い換えても良いのではないか。

〔笠原委員〕

- ・「上記を含めた全ての公益的な事業や活動の総体」が良いが、同義語が重なってしまう。

〔中山座長〕

- ・井上委員から出された、一度文を切ることでクリアできると思う。

〔事務局～企画課長〕

- ・平塚市の条例では「まちづくり」を「市民が幸せに暮らすまちとしていくための…」と定義している。

〔中山座長〕

- ・解説なので、ある程度の例示があった方が良いと思う。その上で「この条例では…」としてどうか。

〔笠原委員〕

- ・それであれば、文章を並列させた意味が分からなくなる。むしろ、「この条例では」の中に都市基盤整備などを含めてもらって、「地域社会」ではなく「北見市」と具体的な名前を入れた方が良くと思う。
- ・資料2ページの図（専門部会で検討作成された「共働」の説明図）からいくと、A～FのAを想定していくなら、公益的な事業その他を入れておかなければ今回のまちづくりの特色は出てこない。
- ・旧来のまちづくりでは、都市基盤整備や社会保障施策などが含まれる。
- ・それも同時に含まれるという表現、敢えて解説するということなら、そうなると思う。「この条例では、都市基盤整備…様々な事業に、公益的な…総体を加えた…」とすると網羅的な説明になると思う。そうすると、Aが入る。

〔井上委員〕

- ・このままでも、Aは入るのではないか。
- ・もし、ABCと並べていきたいのなら、まちづくりには住民活動や福祉活動というように小さなものから徐々に大きなものへとしていけば分かり易くなる。
- ・市民独自の活動分野をまちづくりの中心に据えたいのなら、それを最初に出すとインパクトがある。

〔中山座長〕

- ・そうすると、「まちづくりには、住民活動、福祉活動、都市基盤の整備…」となるか。

〔笠原委員〕

- ・その次の「市政」の解説で「まちづくり」のうち、議会及び市長等が担う部分とされている。逆に言うと、「まちづくり」には議会及び市長等が担う部分以外のものが多いということが説明されている。
- ・市民が直接担う部分があるということを「まちづくり」の方で強調して説明してもらえると分かり易い。

〔中山座長〕

- ・それが住民活動でないか。

〔笠原委員〕

- ・ただ、住民活動や福祉活動というのは、行政主体のものに読めるような形があり、公益的な事業と住民福祉活動のレベル差がある。
- ・市が担っている社会保障制度や都市基盤整備などは、別にそれで良いと思う。しかし、まちづくりはそれだけでなく、その前に市民が担う部分があるということを、市民が主体であることと同時に行動も第一義的に市民が行うということを表す。

〔井上委員〕

- ・そうすると、やはり市民自主活動などという活動形式で使われている言葉を入れた方がまちづくりは市民が主体であることを言いたいのなら、他の言葉を使うより良いのでは。

〔中山座長〕

- ・同じ言葉を使った方が良いと思う。
- ・市民が住民に替わるかもしれないが、「市民自主活動」として、全体的に2ページの図の活動形式欄にある最後の「法定受託事務」以外の言葉をそのまま使ってはどうか。
- ・今後、「条例の概要」の内容（言葉）が替われれば、それに伴い若干変わってくるが、たたき台の「都市基盤の整備」などの部分を「市民自主活動、市民と行政との連携活動、公共事業」に置換え、「活動があります」で一旦区切ることとする。

〔中山座長〕

- ・次に「市政」についてはどうか。
- ・解説の初めの部分は良いと思うが、最後の「市民が直接担う…」辺りが気になるのでは。

〔高橋委員〕

- ・2段落目の「まちづくりのすべてを地方公共団体である北見市が行うわけではありません」の所に、補完性の原理の組み立てを上手く当てはめることが出来ると、今の書き方より良くなると思う。

〔逢坂副座長〕

- ・「市政」については、まちづくりの一部であるということで切って良いのではないか。その後の部分は「まちづくり」のニュアンスになる。
- ・行政としては、「みんなでやる」ということを一節入れたかったのかもしれない。

〔井上委員〕

- ・「まちづくり」の中にある、市民自主活動、市民と行政の連携活動などを分かり易くする3行のような気がしないか。
- ・だから、その部分は「まちづくり」に付けて、「市政」は言い切っても良いのではないか。

〔高橋委員〕

- ・この後段の文は、市役所だけ、議会だけではないと言っているのは大事だが、責任逃れのように読めてしまう。むしろ、市民に助けを求めるような感じである。

〔井上委員〕

- ・敢えて書いているという印象を強く受ける。なぜ、わざわざ言う必要があるのかという違和感を持つ。

〔中山座長〕

- ・解説文だからこそだとは思いますが。

〔高橋委員〕

- ・市や議会に任せるだけではないということは、非常に大事な部分だとは思うが。

〔井上委員〕

- ・やはり言い過ぎだと思う。こうした文章で否定形を使うことは良くない。
- ・表現方法だと思う。上で、「まちづくり」とは市民が直接担うものが中心となって、補完性の原理なども説明し、「市政」は「まちづくり」のうち信託を受けた議会及び市長等が担う部分をいうということで良いのでないか。

〔中山座長〕

- ・上（「まちづくり」の解説文）できちんと説明すれば、「市政」のした3行は要らないということだろう。

〔高橋委員〕

- ・そうすると、条文と解説がほぼ同じ文章になってしまう。
- ・このことは非常に大事、書き方次第だと思う。

〔井上委員〕

- ・大事だからこそ、「まちづくり」の表現をきちんとした方が良い。

〔高橋委員〕

- ・市役所側の立場で書かれているから変なのであって、市民側の立場で、市民は市役所におんぶに抱っこではないという形で書くと良いのでは。

〔中山座長〕

- ・そうなると、書く場所が違う。ここは「市政」の解説であり、「まちづくり」の部分で書くべきだと思う。

～ 検討内容のまとめ ～

前文（座長修正案）

- ・市としての決意を表し、前文にインパクトを持たせるものとして、「オホーツク地域の中心」という文言を使う。
- ・第3段落、「声が市政に届き、調和され、活かされる」を「声が活かされる市民自治」に修正する。
- ・その他、出された意見を基に座長が再度修正を加えたものを提示する。

第1条（目的）

- ・条文、解説文ともに、「議会及び市長等」に「議員」を加える。

第2条（用語の定義）

- ・「まちづくり」の解説文を修正
まちづくりには市民自主活動、市民と行政の連携活動、公共事業等の活動があります。この条例では、・・・（以下、資料内容と同じ）
- ・「市政」の解説文の2段落目の文章を削除。

次回の会議について

〔中山座長〕

- ・次回は、前文の修正案と、条文は第3条から検討を続ける。出来るだけ効率的に進めていきたいので、各委員とも事前に資料を読んで考えをまとめて会議に臨んでもらいたい。

〔事務局～企画課長〕

- ・次回は、7月16日（木）の開催を予定する。

〔中山座長〕

- ・以上で、本日の会議を終了する。